



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

むさぼり、いかり、おろかさに流されず

しなやかな心とふるまいを

(大谷光淳門主「私たちのちかい」)



新型のコロナウイルス肺炎については、昨年十二月頃から感染が報じられていたが、「大したことはない」と他人事のように思っていました。だが、初期の封じ込めに失敗し、感染者は中国から世界に拡大の一途です。春節の中国人観光客が減ったところではなく、中国の経済活動にブレーキがかかり、収束が遅れば一層世界の経済にも深刻な影響を及ぼします。

マスクの需要拡大に生産が追いつかず、買い占めや高値で転売される事態は、1973年のオイルショック時のトイレットペーパーを巡る騒動と全く同じ。人間の愚かさは今も昔も変わらないなあ、と嘆息させられます。

その愚かさは、貪りの心と表裏一体です。感染の拡大が自分の周りに及ばないとも限らない訳で、阿弥陀經に説かれる頭が二つで胸が一つでつながっている「共命鳥」の譬えを思い起こします。二つの頭の鳥は仲が悪く互いに突き合いのしり合う。ある時片方がたまりかねて相手に毒を飲ま

せたが、胸が一緒だから毒が自分の方にも回って死んでしまうという比喻です。我々も互いに無関係な者はないのだから、共存できるよう相手の心に思いを寄せ、柔軟な心で生きていかなければならないという訳です。

そんな話をしていたら、「誰でも自分が一番かわいと思うのは当たり前ではないか?」と言う人がいました。その目は「きれいごとばかり言うな」と開き直っているようです。中国政府が当初、情報統制で封じ込めを計ったのは政権中枢部の利己主義であり、想定外の拡大につながりました。諸悪の根源は利己主義、我執にあり、どんな立場であろうとも間違いを起こす根本原因となることを我々は皆、等しく自覚しなければなりません。

今回のウイルス感染は中国・武漢市の海鮮卸売り市場が発生源で、ラクダ、ヘビ、オオトカゲ、タケノコ、コアラなどの動物が生きたまま、または殺処分して売買されていたという。日本ではそこまでいかにしても、もの

の命を奪っていることに変わりはない。鳥インフルエンザ、豚コレラ、狂牛病など、高度の医療で対抗してもまた新たな感染症が現れるのは、無限欲望社会への警鐘かもしれません。

「むさぼり、いかり、おろかさに流されず しなやかな心とふるまいを心がけます」。「私たちのちかい」に示されたお導きに従って自戒しつつ生きたいものです。



和ははは

☆行事ご案内☆

春季永代経法要

3月14(土)・15(日)・午後1時半

講師:加藤学先生(桑名)

※お経開き(招待者)3月14日午前10時半

◇一縁会テレホン法話 18冊目新刊本『仏様から信じられている』(自照社)好評発売中、善正寺3人が執筆
 TEL 059-354-1454 で三分間の法話

◇三全仏教婦人会総会 3月20日夜7時光念寺様

◇三重組十三日講 3月13日前・後、覚照寺様

◇絵手紙教室 3月10日(第2火)前10時52回目
 参加費500円、初心者歓迎、下手がいい下手でいい

◇歌声喫茶 3月19日(第3木)後1時12回目
 庫裏食堂、ご都合のいい時ご参加下さい。無料

◇キッズサンガ 3月7日(第1土)後4時表彰式
 夕方5時の鐘撞きは年中無休、子供に心の教育を!

◇初参式の赤ちゃん・幼児大募集、三全仏婦主催
 4月18日(土)後1時、地域で子供の誕生と成長を祝福。参加費千円、誰でも参加OK、記念品有

善正寺ホームページ:三重善正寺で検索1年分の寺報
 閲覧(27年毎月発行)毎日更新ブログ『住職と坊守
 のつれづれ日記』好評11年7カ月で31万2千訪問、

法事場所でお困りの方:本堂使用可、寺にご相談下さい
 納骨堂:後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談を

☆ 写真アラカルト ☆



坊守スケッチ

白内障手術

白内障の症状



「70代、老化は脚に来る」という宣伝文句を見て、私は散歩をしているから大丈夫だと思っていました。ある日突然老化現象が別の形で現れました。

最近運転をする時に、霞がかかったように見えません。学生時代から近視にもならず眼鏡は不要。60代、人並みに老眼鏡を作りましたが、鬱陶しいので使わないままでした。まだ裸眼で新聞も読めるし、散歩で早朝の月や星を眺めているから大丈夫と高をくくっていました。でも運転は命の危険が伴うので、念の為に眼科医を受診しました。

「ああ、立派な白内障です。直ぐに手術の予約をして下さい」。初診早々藪から棒に手術と言われて驚きました。「エエッ一寸待って下さい。ウチはお寺なので予定帳を見ないと決められません。点眼薬で様子をみたらダメですか?」「白内障は薬では治りません」。

そこで別の眼科医の診察も受けましたが同じ診断でした。白内障手術は近年日帰りも可能な簡単な手術で、どこでも2、3カ月の予約待ちが常識。手術法は多焦点レンズを使う先端医療から、一般的な単焦点レンズまで様々な費用は百万と拾万の十倍の差があり驚きました。勿論私は人並みを選び、手術を5月末の連日に予約しました。手術経験者の感想は「視野が広がって見違えるほど明るくなった」「顔

のシワが目立ち、家中こんなに汚れていたのがガツカリ」「手術後も通院して眼鏡も併用するから不便」「高額レンズ手術を受けたが見えない部分には眼鏡が必要」「まだ充分見えるのだから手術を先延ばしにしたら?」等様々な意見を頂きました。

昔の高齢者は、パソコンもスマホも使わずに目に優しい生活。現代の高齢者がこんなに早く白内障を患う原因は、便利な生活と引き換えに刺激的な光で目を酷使する生活に慣らされたからかもしれません。目以外にも、歯、耳、足、腰、膝等、体のあちこちに老化現象が忍び寄ります。早くから医者通いを繰り返す友人が「あなたもとうとう私達の仲間入りね。大歓迎よ」ときつい冗談。これからは私も老いの自覚を持ち、誰にも温かい言葉と優しい振る舞いを心がけたいと思います。

寄稿

冬の雨濁いた大地湿気かな 釋妙水
畦道や群れる水仙咲きみだる
色いろのマスクの並ぶ駅ホーム
小鳥来る裸木に羽根休めけり
間違いじやないの今咲く冬桜
薄氷に恐々触れし児の悲鳴 釋清風
生まれ来し喜びひとつ梅の花
長き影踏みつ踏まれつ日脚伸び
月冴ゆる野の道すがら猫に逢う

☆若院夫婦の「育自な日記」63

一月最後の土曜日、四日市市文化会館で長女の幼稚園のお遊戯会がありました。当日は午前中に器楽合奏、午後にはオペレッタ、フィナーレに出演するという長丁場です。

年中さんは毎年、オペレッタを披露します。長女の園では一役に四人から五人の子が付き、二役を務める子もいます。セリフや動きを間違える子や、場面転換の暗転後なかなか明るくならないと、何事かと生ならではのハラドキドキがあります。

長女のクラスは「ブレーメンの音楽隊」で、長女はネコ役を務めました。セリフ、踊り、歌のあるオペレッタは覚えるのが大変そうですが、頭の柔らかい子どもたちは、他役のセリフも全て頭に入っているようで驚きです。長女も自宅で熱心に自主練習!本番のネコの衣装も楽しみにしていました。

恥ずかしがりな長女、大きな声で言えるか心配でしたが、マイクが正面にあつたおかげか、長女の声がよく聞こえて安心しました。ふわふわのベストとスカート、ネコ耳のカチューシャをつけて、立派な仕上げも生えています。先生のお仕事に拍手です。

しっかりと本番を頑張った長女を頼もしく感じられとても嬉しかったです。来年の最後のお遊戯会が今から楽しみになっていました。



ホットニュース

◇本堂で親戚の法事に参詣された東京在住の女性は元杉の子合唱団の第一期生。(昭和五〇年)子供時代に使った小さな聖典でお勤めされました。私も昔にタイムスリップ。子供時代に仏縁を結ぶ尊さに感激し、いつまでも大切な思い出として心の支えにして下さった彼女に感謝です。

◇一編会テレホン法話059・354・1454で3分法話。18冊目の新刊本『仏様から信じられている』発売

◇三全仏婦主催「初参式」の赤ちゃん・幼児大募集。4月18日(土)後1時千円子供は地域の宝、皆で育てましょう!

令和2年度善正寺主な行事案内
☆春季永代経 3月14(土)・15(日)
両日共午後1時半・講師加藤学先生

☆仏婦初参式&降誕会 4月18日(土)後1時加藤幸子先生 赤ちゃん募集

☆善正寺門信徒總會 5月17日午前10時

☆玉蘭盆會法要 8月14日午前8時半

☆秋季永代経 8月15(土)・16(日)両日共午後1時半 加藤正人先生

☆報恩講 11月2日午後と夜・3日午前と午後仏婦報恩講守快信先生(滋賀)

☆秋勤進 11月23日午前8時

☆お内仏報恩講 12月5日土前10時半

※第3日曜日夜7時半門信徒会例会

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」315号をお届けします。◇暖冬異変と新型ウィルス肺炎の感染拡大、豪華クルーズ船も立往生。◇浮世はまさに「一寸先は闇」。合掌。

新型コロナウイルスによる肺炎が世界中を恐怖に陥れています。一月に中国武漢から発生した肺炎が瞬く間に広がり、日本でも患者数が日毎に増加して収束の兆しさえ見えません。日本からも救援機が飛んで避難脱出・豪華客船の旅を楽しんだ三千七百人の観光客の横浜港沖で安全確認されるまで待機させられるのはお気の毒です。有名企業が中国から一時撤退して中国経済も大打撃。習近平主席の来日も延期され果たして夏の東京オリンピックが無事開催されるか心配になってきました。それよりも差し迫ったわが身の老化現象。五月末の白内障手術とその後の不自由な生活をどう乗り越えるか気がかりです。本来ネアカな私ですので、最後は何とかなるわい」と聞き直して全てを阿弥陀様にお任せします。この経験も私が担ってきた仕事を住職と若院夫妻に任せるチャンスと思えば有難いご縁です。いつまでもあると思うな親と金。無いと思うな運と災難への誘いどうり、まさかの時に備えて日頃から節制して精進する生活を送ることが大切だと気付かされました。たとえどんな時代の荒波が押し寄せようとも、五百年以上続いた善正寺の法統を次世代に引き継がねばなりません。三月の永代経が過ぎると次の新役員さんの選挙が控えています。高齢化時代に皆縁のお支えがあってこそのお寺です。どうかご協力をよろしくお願い申し上げます。合掌 善正寺坊守 拝

令和二年 五月